

## 総合研究大学院大学海外学生派遣事業 実績報告書

所属 統計科学専攻 5年一貫博士課程3年 池端久貴  
派遣先 The Department of Statistics The University of Oxford  
派遣期間 平成26年2月24日～平成26年3月23日

私は今回、総研大の海外派遣事業制度を利用して、イギリスのオックスフォード大学に滞在しました。イギリスは統計学の発祥の地であり、オックスフォード大学では多くの有名な統計学に関わる研究者が所属しており、最先端の研究が進められています。

今回の派遣事業では資金の都合上、1か月と短期になるので、現在進めている統計的手法の汎用化に関するアイデアを広げていくことを目標としました。派遣先には関連分野の研究者が多く所属しており、議論を交わすことで多くのヒントを得られると考え、申込みを決断しました。受け入れ教員は統数研に何度か来られている **Arnaud Doucet** 教授で、メールで滞在の希望を伝えたところ、快く承諾してくれました。イギリスでは勉学目的での1か月未満の滞在には受け入れ先からのレターを入国管理局で提出する必要があるのですが、心配する間もなく手元に届いたので、渡航準備に関してはスムーズに進めることができました。

派遣先では、数学系の専攻を含めて、多くの講義、ワークショップが開催されています。クラスメートが研究に関連するトークの情報を適宜教えてくれたため、必要なものは漏らさず参加できたと思います。何度か参加して、日本の大学と比べて学生の積極性が非常に高い印象を受けました。1回のトークで20人以上の参加者ほぼ全員が質問する姿勢は見習うべきですね。研究は何度かディスカッションを重ねつつ、文献を読んでアイデアを深めるといった感じで、いつもと話し相手が違い、使用する言語が英語ということを除けば、普段とあまり変わりません(笑) 皆さん忙しい中、拙い英語を聞いてくれたので感謝しています。

せっかくオックスフォードに来たので、研究以外のことも充実させようと、日本での普段より行動するように努めました。**Japan community** というもの見つけたので、似た境遇の日本人がいるかなと期待して日本料理屋へのツアーに参加したら、日本人は30人中3人のみで戸惑ったり、飲むのが大好きなクラスメートとパブからバーの梯子酒で帰りはタクシーという日本のサラリーマンのような飲みニケーションを堪能したり、日本で普段は選択肢にない劇を見に行ったり(深いところは全く理解できず)と、いつも以上に体力を使いましたが、ここ3年分ほどの貴重な体験をできました。

滞在は **Bed and Breakfast** といって朝食付きの個人経営の宿を利用しました。朝食は小さいテーブルに相席で、フレンドリーな人が割りと多かったので、楽しく食事でき満足です。イギリスはホテルが非常に高く、円安の影響で更に割高になっていましたが、なんとか支給分でカバーすることができました。ただ、少しギリギリだったので、パブでの一皿

10 ポンド以上の食事をオーダーするのは気が引けました(ビールはたくさん飲みましたが)。

申し込みから渡航まで 10 か月以上あったので、事前に英会話のトレーニングを少しだけしました(主に洋画や海外ドラマを視聴による耳のトレーニング)。以前に受けた TOEIC スコアが 855 点だったので、渡航前は 855 点プラスα程度の英語力という自己評価です。イギリスなので普段の生活でも、大学でも、会話は英語です。イギリス英語(といってもフランス、スペイン出身者が比較的多い)は人によっては少し聞き取りにくいという印象でしたが、普段の会話は特に問題はなかったと思います。ただ、パブでみんなが酔って、早口になって、しかも雑音が多い場所では、全く英語が聞き取れず会話が成立させることができなかつたことが少し残念です。

今回の海外派遣事業では、普段と違う環境に自分を置くことで、いつもより積極的に行動でき、研究においてもそれ以外においても新しい経験ができました。上手くいかずに辛いことも当然ありますが、その見返りとして、自分の持つ課題を多く発見することができたので有意義な一か月でした。海外派遣に申し込もうか迷っている方は、是非申し込んでみることをお勧めします。成果は人によってそれぞれですが、失敗体験も含めて決して無駄にはならないと思います。